

311を契機に里山暮らしをスタート。この気持ちよさを音楽で伝えたい!

家族でLIVE、かや小屋バンドの **Yuta** さん

去年大規模な水害があった岡山県小田川上流部にある里山に暮らす家族バンド、かや小屋バンドのYutaさんにお話をうかがうため、桜のきれいな4月初旬にお宅にうかがった。

自給自足の里山暮らしから生まれたメッセージを、ごきげんなレゲエのリズムにのせて歌っているのだが、311の事故が起きる直前にはじめて原発や自給的暮らし方のことを考え始めたという。



←岡山と広島の間境、小田川上流部の里山には桜が咲いていた。積んだ薪の上に座るYutaさん。

《オール電化生活から薪暮らしへ》

Yuta ●311が起きるほんの1ヶ月か2ヶ月前くらいに、偶然というか導かれるように上関の田浦ギャザリングに行ったんです。原発反対の人達が集まって話し合いをするような場にそのとき初めて行ってみると、資料とかが並んでいて、自分として初めて原発のことを考えるようになりました。そのあとすぐに311があって、目に見えない放射能の恐怖に毎日怯えました。ニュースやネットの情報を見て、被災はしてないけど僕とKa-yaは生地獄に居る様でした。何も出来ない自分達が本当に辛かったです。眠れない程不安な数日経ったある日、前向きに生きるため真剣に話合いました。一体自分達に何が出来るのかと。そして行き着いた先が里山での田舎暮らし。311の1ヶ月後くらいに茅葺きの古民家を見つけたんです。そこは山から水が引いてあるだけで、風呂もトイレも使えないし床も抜けてました。解体現場から貰ってきた五右衛門風呂を作り、コンポストトイレを作り、竈を使ったり、本当廃材には助けられましたね。

それまではオール電化生活だったんですけど(笑)。それで火のある暮らしや畑や田んぼとかもやり始めて、3年くらい経ってようやくわ



↑以前の田んぼでの稲刈り 友達も一緒に

かってきたなーと思ってた時に、それまで500円で借りてた家賃をいきなり3万円にするとと言われて、それで今の家に引っ越しをして、ここも今3年くらい住んでいます。そしてここから7、8分ほど行ったところの奥さんの実家の裏にある離れを今なおしています。そこなら未来に繋げるから。

—自分で家をなおすって、大工仕事は前からやってるんですか？

●ぼくは高校を2年で辞めて、実家が左官屋さんでおじいちゃんとおやじもまだ現役でやって、ぼくも16年くらいやってるので左官のことは一通りできるんです。で、現場に行くと大工さんと一緒になることがあるから、あとはもう見よう見まねですね。

—田んぼや畑も見よう見まねで？

●そうです。それこそ「自然栽培」とか本があるじゃないですか。そういう本をとにかく買って、あとは自分でやってみて。それにたまたまうちの母方のじいちゃんは農家をずっとやっていて、小ちゃいころ手伝いに行ったりという記憶はあるんです。でも自分でやるというのは原発事故があってからです。

—それまではやろうと思ったことはないの？

●もうぜんぜん。ご飯を食べていくためにはお金を稼ぐのが当たり前だと思っていて、自分で食べものを作るというのは全く思ってなかった。

—そういう自分の考え方が311で一気になりました。

— 去年の水害でもそうだったかもしれないけど、それこそ大規模な原発事故が起きると、もうお金なんて持っても役に立たなくなるもんね。コンビニもホームセンターも閉まってしまうだろうし。

●でも自給的な暮らしをしてたら、水も電気もなんとかかなり、食べるものもストックはありという話とか聞いたので、日頃からそういう暮らしができてる方が人間としては強いんじゃないかなと思いますね。

—音楽はいつころからやってるの？

●中学2年の文化祭バンドがきっかけでギターを始めました。高校時代はDJになりたくて機材欲しさに2年で中退。でも結局はDJからラッパーになりました。思い返せば当時から自分を表現したかったんでしょうね。その後20歳の頃にラップは辞めて、生ライブの聴ける井原のチャンプルーっていうお店で4年くらいバイトをしました。その時マスターにボブ・マーレーを教えてもらって、それからずっとボブ・マーレー漬け。今思えば無茶振りなんだけどHIPHOP繋がり友達に電話して、レゲエバンドやろうと誘い、それから3人組のレゲエバンドを7年くらいやってました。そのときはボブ・マーレーのカバーばかり。それ程ボブ・マーレーのメッセージには影響されたし、ウェイラーズサウンドには魅了されました。

—自分でつくった歌をうたうようになったのは？

●結婚して子どもができてからには家族を家に置いてバンド活動をするのが難しくなりました。活動出来なくて悶々としている僕に



Ka-ya が言ったんです。「それなら家族でやればいいじゃん。それならみんな寂しい思いしなくて良いし、家族で色々な所行けるじゃん」って。僕も単純なんで、そっか！と早速バンド名を考えました。嫁さんは Ka-ya だし、住まいは茅葺きだし、ポプマーレーの曲にも大好きな Kaya って曲がある。よし、かや小屋バンドだ！

それまではポプ・マーレーのカバーばかりでオリジナル曲はほぼ無かったです。でもいざ田舎暮らしをすればいいのと思い始め、自然と自分が感じてるその気持ち良さをみんなに伝えられないかと思ったときに今うたってる歌たちが出てきたんです。自分が好きなレゲエに、その伝えたいメッセージの歌詞がハマったというかんじですね。

—— 曲というかメロディーもポプ・マーレーの曲じゃなくて自分で作ったんだね。

●はい、オリジナルですね。ポプ・マーレーはなかなか敷居が高くて (笑)。

—— 家族でバンドやり始める時に、もうみんな楽器とかできてたの？

●いや、ぜんぜん。「こんなメロディー吹いてみてー」てやってもらったり。子ども達は最初はカホンとジャンベでした。ただ家でも車内でも何年もポプマーレーを聞いてたんでレゲエのリズムはすんなりでしたよ。ある意味で英才教育ですね (笑) (*現在はドラムとベースに変わって2年くらいになるそう)

Ka-ya ●その時に家にあったもので、というかんじ (笑)。

—— 子ども達はバンドやるのは抵抗なくやるようになった？

●うん、それ以前からいっしょにお祭りに行

ったりしてたから、音楽をやってる人達を見てたし。今では Toa も唄いますよ。ギターも歌声も僕以上です (笑)

—— なるほど。ミュージシャンはカッコいいと思ってたのかもね。自給自足的な暮らしのことだけど、いま具体的にはどんなことを？

●田んぼはねえ、今2年やれてないんですよ。前に住んでた家のところで借りてた田んぼを、その家を出たあともやってたんだけど、そこまで距離があることと、農薬を使わないと両隣の人達に煙たがられてるみたいなので止めたんです。で、今なおして近々引越す予定の家の裏に休耕田があって、それは奥さんのところの土地なので、そこに住み始めて家が落ち着いたらやろうと思ってます。

●田んぼは急にやらなくなったら、もうやりたくてしょうがなくて (笑)。お米って毎日食べるもんだから、田植えして収穫してっていうサイクルがDNAの中にそういうのがあるのかもしれないなと思うけど。それに作業も家族の絆が深まるかんじがあるし達成感がある。

—— 新しく移る場所はどんなところ？

●ぱっと見はこころへんとそんなに変わらないけど、川でいうとここよりもうちょっと上流で、過疎化してます。娘が入る学校なんて同級生は一人もいなくて、全校で6人くらい。もう今週か来週に入るところです。2番目の中学生が行ってる場所は全校7人で指で数えられる。そこは地元の子がほんとにいないくて、みんな隣の町とかマンモス校からいろいろ理由があって、わざわざバスで通ってくるっていう子ばかり。

—— この辺は外からの移住者は住んでない？

●いないんですよ。おんなじ意識の人が近くにはいないんです。でもこれからどんどん移住したいという人が増えてくるんじゃないかなと勝手に思っていて、そういうときに、こんなところがあるよって紹介できるような場所作りをしたいというか、そういう地域にしていけたらいいなと思ってます。バンドも通じてPRできれば、そういう人達が集まってくれてくれるんじゃないかなーと。

—— 「おじいちゃん」という歌について、どういうきっかけで作ったんですか？

●自分のおじいちゃんのこともあるし、

田舎暮らしを初めて、地元のおじいちゃんおばあちゃんたちが野菜をくれたり、みんな腰がまがってるのに畑をやって、僕たちが草取りなんかでもあたふたしてるのに、毎年当たり前のようにきれいに田んぼや畑をやって、これはすごいなというのもあってできた歌です。

●震災後3年間暮らしてた家のまわりのおじいちゃんおばあちゃんたちは暖かくて、もう感謝しかないですね。家を出ることになったときも、いろんな人が訪ねて来てくれて、みんな見守ってくれてたんだなーというのがすごいわかった。せっかく若い人が来てくれたのに、わしが言うちやるわーって大家さんに直談判してくれたり。(笑) 近所の人達が家族同然みたいになってきて、ほんとの家族よりも毎日顔を合わせるし。美味しい物ができたら持って行ったりまたもらったり。

歌詞紹介

「おじいちゃん」

おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんたちが
いまを生きる僕らのいのち つないでくれたんだ
おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんたちが
生きていく知恵を見つけたから いま僕はここにいる
縁の下にはトリを飼い 田をひくために牛と暮らし
父ちゃん育てた豆蒸して 母ちゃんせつせと味噌仕込む
今年もまた四季はめぐり 里山が黄金色に染まる
実りを祈り歌をうたい 山の神と共に生きてきた

おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんたちが
いまを生きる僕らのいのち つないでくれたんだ
足りないものはなにもない あるものだけで暮らしていた
必要なものは作っちゃう あるものを使い作っちゃう
でもあなたはもう時の人 残された石積みが泣いてる
あなたの生きたその証を 横目に僕はクワをふるう

おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんたちが
いまを生きる僕らのいのち つないでくれたんだ
おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんたちが
生きてく知恵を見つけたから いま僕はここに居る

ひいひいひいひいひいちゃん 孫の孫の孫の僕が
ひいひいひいひいひいちゃんに送る 孫の孫の孫のラブソング
(くりかえし)





●その頃ばばって曲ができたんですけど、それはその家を出てから行くところがなくて、今なおしてる家にとりあえずいたんです。6畳の部屋だけなおして。で、前の家を出た時にお腹が大きかったから。その時が2回目の自然出産で、ほくがとりあげたんですけど、そこで次女が生まれた後、1ヶ月程ほくが家事をしている頃に歌がうまれたんです。家族だけで出産を経験したということでも、命のありがたさ、命が生まれることの素晴らしさをすごい感じて、それといろんなおじいちゃんたちにお世話になったところから、おじいちゃんに対するリスペクトが重なって生まれたんだと思います。

《あるもので家や道具を作っていた》

●稲刈りとか田植えも、今は機械が主流になってるけど昔は手作業。馬耕機とか、使ったことはないけど蔵にあります。今だったら必要なものはホームセンターや農機具屋に買いに行くのかもしれないけど、昔の道具は木とちょっとした釘とかだけでぜんぶ作ってあるから、なければこんなものがあればいいと考えて作っちゃう。そこに対する尊敬はすごかったです。



造りでも通じるものがあるって、今だったら材料はホームセンターや建材屋に行ったらあるけど、昔はそのへんにある土とかワラとか石灰とか竹、木、そういうもので家を作ったりするわけで、昔の人には本当頭が下がります。

●いまは中国電力にお世話になってるけど、いずれは電気も作りたいな—と思ってますね。これから太陽光のパネルでも廃材が出てくるだろうから、そういうある物を使ってですね。わざわざ買うとなると高いだろうから。それに今引越そうとしてるところは、地域に水力発電システムがあるんです。詳しくは知らないんですが、川で発電するのは地域の人とつながって協力してできるのが一番いいですよ。

— CDのタイトルは「里山人(さとやまん)」だけど面白い言葉だね。

●3年前にアルバム出した時にひらめいた言葉です。海人(うみんちゅう)とか言う感覚で、里山で暮らすから、

— いい言葉だね。山水人(やまうと)なんか自分たちで思いついてつくった言葉だし、そういう自分たちのことを言い表す言葉を見つけるってすてきなことだね。伝わる力がある。さとやまは里山で暮らしていることを現してるわけだね。

●そう、ちなみにぼく佐藤だし(笑)、レゲエ好きな人達はヤーマンって挨拶するから、佐藤ヤーマンもかけて。

— そういうオチがあったか！(笑) 日本列島で川の下流の方にいけば街があって、ちょっと上流にいくとどこも里山になっていて過疎でも少ないけど、そういう里山が自給的な暮らしをして自立していけばもっと楽しく面白くなりそうだね。この言葉には里山暮らしは楽しいよっていうメッセージが入ってるような気がする。

●他にも「美しい世界」という曲があるんですけど、それは自分で大工仕事をするようになって、日本で最後の宮大工といわれる西岡常一さんの本を読んだ時にできたんです。法隆寺の再建をしたり、木の達人と言われる人で、1000年もつ建物をたてるには、木を知らなければいけないという。

お金さえあればなんでも便利に手に入っちゃう時代だけど、それが当たり前になってるのはよくないんじゃないかという思いが自分の中にあるんです。昔の日本建築の家でも、今の人達にとっては古い家ですぐ解体してゴミにしちゃうけど、でも今建ててる新築の家と比べると、どれだけすごい価値が詰まってる

のかというのが僕の中ではあるんです。でもその価値を分らない人が大多数で、それはちょっと寂しいなと。そういう人達に少しでも木のこと自然のことについて感じて欲しいというか。あの曲の中で「立ち木を見せると書いて親と読む」というフレーズが出てくるんですけど、そこにもそういう想いが詰まっています。ただ学校入って卒業させるだけが親の仕事じゃないって僕は思うんですよ。自然の恩恵の中で人間は生きて行ってるんだよっていうのを、自分も感じて生きていきたいし、子ども達にちゃんと知ってもらわないと、今進んでような環境汚染だったり、コンビニとホームセンター汚染といったらおかしいかもしれないけど、ほんとそういう時代に突入してしまってるのが現実だから悲しいんです。「美しい世界」っていうのはゴミを拾ってそこがきれいになったら美しい世界なんじゃなくて、美しい物を美しいと思える心を持つことが美しい世界だっていう気持ちで作った曲です。



INFORMATION



★CD 紹介

1st mini album 「里山人(さとやまん)」
全6曲 ¥1800 2017年

★夏の唄旅計画中:

約40日間の家族ツアーも今年で3年目とのこと。まだスケジュールに余裕があるので大募集中だそうです!

★問い合わせ先:

kayagoya@yahoo.co.jp